

令和8年度第1回岡崎市産業労働計画推進委員会議事録

1 会議の日時 令和8年7月8日（水）午前10時

2 会議の場所 岡崎市役所 西庁舎5階 502号室

3 会議の議題

- (1) 令和7年度下半期までの進捗確認について
- (2) 令和8年度以降の取組について
- (3) その他

4 会議の委員

(1)会議に出席した委員（8名）

愛知産業大学 名誉教授	丸山 宏	会長
岡崎商工会議所 専務理事	岩月 幹雄	委員
岡崎市六ツ美商工会 会長	萩原 幸二	委員
岡崎市ぬかた商工会 会長	浅岡 謙治	委員
Lif 社会保険労務士 事務所		
株式会社 Lif 代表取締役	田中 亜矢子	委員
愛知県労働者福祉協議会 岡崎額田支部 事務局長	井口 智章	委員
日本政策金融公庫 岡崎支店長	山田 康弘	委員
公募委員	祖父江 理依子	委員

(2)会議に欠席した委員（2名）

株式会社まちづくり岡崎 代表取締役	松井 洋一郎	委員
公募委員	岡田 麻希	委員

5 説明者

経済振興部長 小林 哲夫
経済振興部商工労政課長 水上 順司
経済振興部商工労政課副課長 船山 哲
経済振興部商工労政課労政金融係係長 成瀬 博幸
経済振興部商工労政課ものづくり支援係係長 祖父江 和俊
経済振興部商工労政課にぎわい創生係係長 岡山 幸男

6 役員選出

岡崎市産業労働計画推進委員会要綱第2条の規程により、事務局から会長を立候補または推薦で選出する方法を提案したところ、萩原委員から丸山委員を会長に推薦する発言があり、他の委員からの賛同も得られたため、会長を丸山委員にお願いすることとなった。また、丸山会長から、会長職務代理者に岩月委員を指名し、会長職務代理者を岩月委員にお願いすることとなった。

7 令和7年度下半期までの進捗確認について（説明）

会長（丸山宏委員）が令和7年度下半期までの進捗確認に関する説明を求め、提出した資料に基づき次の事項について事務局から説明した。

- (1) 基本戦略1 中小企業・小規模事業者の振興 の進捗について
- (2) 基本戦略2 ものづくり産業・新産業の振興 の進捗について
- (1) 基本戦略3 商業機能と観光の連動 の進捗について
- (2) 基本戦略4 創業・起業のしやすい環境の整備 の進捗について
- (3) 基本戦略5 産業人財の育成・働き甲斐の獲得 の進捗について

8 令和8年度以降の取組等について（説明）

会長が令和8年度以降の取組等に関する説明を求め、後期計画の新規施策について、事務局から説明した。

また、各基本戦略における、令和8年度以降の主な取り組みとして、「事業承継支援業務」「岡崎市共創イノベーション推進戦略」「ふるさと納税制度」「キャリア教育推進業務」「岡崎市雇用対策協議会事業」について、事務局から説明し、委員に意見及び情報提供を求めた。

9 令和7年度下半期までの進捗確認及び令和8年度以降の取組について（意見・情報提供）

事務局の説明後、次の趣旨の意見及び情報提供がなされた。

岩月委員：計画策定から5年経過し、「仕事のしやすい 働き甲斐のある共創イノベーション都市 岡崎」という抽象的な目標があり、それに対し具体的な戦略や施策を設け、達成状況を確認している。手段の評価になっているが、2030年の目標達成はなにをもって達成したといえるのか、曖昧な印象を持っている。商工業の振興が目標であることから、生産高・出荷高・事業者数・創業者数など、経済的な指標を基に評価していくことも並行して必要ではないか。令和8年度は経済センサスのある年であることから、計画が始まってから5年間の推移がわかる。施策は具体的に実行できており、目

標も達成できていることから、目標達成による効果をあわせてみていていったらどうか。

萩原委員：零細企業は、商売維持や従業員雇用継続など、めまぐるしく変わる世の中についていくのが精いっぱいなのが現状。中学生の職場体験や職場説明などで、学校から依頼がきている。中学生ではまだ進路が決まっていないことがほとんど。職場体験等をきっかけに将来六ツ美で働いてもらいたいという想いがあり、受け入れている。また、金利が上がっており零細企業は大きな影響を受けており、商工会の政策金利などを案内している。後継者問題について、早い段階で相談するよう勧めている。

浅岡委員：目標数値からはるかに超えているものがある。数値の目標設定は難しいと思うが、もう少し高いものに設定し、評価を○や×ではなく、パーセンテージにすべきでないかと思う。計画の内容については、企業・人材のサポートは幅広くできているように感じる。額田地域は岡崎市と合併して 20 年を迎えた。人口は年間 100 人ずつ減少している。日本人口が減少しているため中山間地域の人口減少を留めることは難しいと思っている。岡崎東インター周辺が調整区域になり、申請をすれば工業系も進出可能ではあるが、条件を満たしていない事務所等はできない。特別区域のような形で用途を緩和するなどできないか、と常々思っている。工業用地の誘致について、小さくてもいいのでインター周辺など交通の便がいいところで設定できないかと思う。先日、愛知学院大学が地域政策の事業報告を行った。若い方に目を向ける事業が大切だと感じた。地域にきてもらうような施策を進めていただきたい。

祖父江委員：専業主婦歴が長く、40 代で再就職をしようとしたが、雇ってくれるところが見つからず、アルバイトを探すことになった。子供が大きくなった専業主婦で働きたい人はたくさんいるはずだが、就職先がない。おしごと発見フェアの主婦版など、主婦を雇ってくれる事業所を知る機会があるといい。40 代・50 代の主婦はやる気も体力もあり、まだまだ働きたいと思っている。また、高校に通う生徒が、学校から提供された企業の一覧をみても、どこがいいのか分からず、働きたいところがないから大学に進学するといった話も聞いている。会社の概要を知っても配属先によって仕事内容は異なるため、保護者が具体的な仕事内容を説明することも難しい。市内企業の魅力が伝わっていないように感じた。

山田委員：日本政策金融公庫の取引先は小企業事業者が中心だが、従業員数 10 人以下の企業が 9 割を占めており、ひとり親方や夫婦だけで経営している事業所なども多い。今年からオカビズと連携し、相談会の取組をしており継続していきたい。基本戦略 2

-2の事業承継の話に関わってくるが、日本政策金融公庫では、事業を譲りたい人・譲り受けたい人をマッチングする事業を行っている。日本政策金融公庫で取り扱っている事業承継の譲渡金額は、平均で500万円～550万円程度。赤字でも3割ぐらいは事業承継が成り立っている。また、創業者が譲り受けたい企業を譲り受けて創業する「継ぐスタ」では、資金コスト・顧客や取引先の確保・営業規模など土台がある状態で引き継いで営業できる。関係機関と連携しながら地域の問題に取り組み力を入れていく必要があると考えている。

丸山会長：事業承継が成約する特徴などはあるか。

山田委員：全国組織のため幅広い業種があり偏りが無い。県内だけでなく他県間での事業承継も3割程度実現している。例えば、常滑市のちゃんぽん屋を東京からの移住者が承継している。登録したら必ず成約できるわけではないが、辞めるだけでなく次世代に繋ぐという選択肢があることを知ってほしい。

井口委員：活動を取り組んだ結果、新しい人材の確保などどの程度結びついているか分かるという。特に基本施策5-3「多様な人材の活用・活躍支援」は人材不足のなかで多様な人材の活用は重要になっており、高齢者雇用や障がい者雇用など、どの程度新しく採用に繋がったのか結果が分かるととてもいいと思う。外国人労働者には日本語が話せる人もいれば話せない人もいる。外国人に対する日本語教育も重要な課題だと感じている。また、高卒人材も不足しており、高卒で働きたいと思える社会にしていけないといけないと思う。おしごと発見フェアのように高校生や保護者に参加してもらい、大学へ進学する必要性などを見直してほしい。保護者含めて岡崎市で働くことのキャリアの理解を得るような施策を進めてほしい。

田中委員：「仕事のしやすい 働き甲斐のある共創イノベーション都市 岡崎」がビジョンだと思うが、ビジョンに対して誰がワクワクして取り組んでいるのか見えない。また、基本施策5-8「企業の魅力向上支援」にパーパス経営が挙げられているが、非常にいいと思う。先ほどの祖父江委員の意見にもあったが、企業の人手不足と働きたい人がどうしてマッチングできていないのか、原因は中小企業からは見えにくいので、市がサポートできればいいと思う。

丸山会長：基本戦略3「商業機能と観光の連動」にあるふるさと納税について、愛知県は恐らく実質赤字が一番多い自治体なため、高い目標を掲げると苦しいかと思う。

横浜市は寄付額を増やすために、近年マツダのドライビングスクールの利用券など体験型をうまく使い改善してきている。工場見学のような、産業の特色を生かした見学などのニーズは一部にあると思う。一般では体験できないものなど、ふるさと納税で思い切って申し込もうと思うきっかけがあるといい。

岩月委員：産業労働計画を作成する際に、アンケートをとり、課題に対する戦略をたてていたと思う。5年経過したこのタイミングで、同内容のアンケートをとってどう変化したのか定点観測が必要かと思うが、実施予定はあるか。

事務局：現時点ではアンケートを行う予定はない。

丸山会長：事業者アンケートは比較的とりやすいのか

岩月委員：全く同じ項目を調べてみるのが、変化があっていいのではと思う。

事務局：中間でアンケートをとっているが、項目を少し変えてとっている。いまずぐ実施できるかは不明だが、定点観測といった観点からやっていこうかと思う。

岩月委員：全く同じ項目でやる必要はないが、ぜひ実施していただきたい。

10 その他

本日交わされた意見を参考にし、より良い計画とすることを期待し、本委員会の議事について承認を得た。

事務局から、議題に関する意見、提案等については、7月15日（水）までに連絡するよう求めた。

次回産業労働計画推進委員会は令和9年1月28日に開催予定であることを説明した。

最後にすべての議事日程の終了を告げ、令和8年度第1回産業労働計画推進委員会を閉会した。